

## 江藤教授との懇談会に係るレポートまとめ

### 江藤教授との懇談会

日時：令和5年2月14日（火）午後4時から午後5時48分まで

会場：飯田市議会 議場

講師等：大正大学 江藤俊昭教授

日本生産性本部 野沢 清執行役員 鎌田朋宏担当課長 千葉茂明上席研究員

出席者：飯田市議会議員 23名 議会事務局（和泉局長 丸山議事係長ほか2名）

### 1 懇談会へ参加しての感想

- ・ 政策サイクルは各議会で改善していけることがわかった。
- ・ 住民・執行機関・議員の対話が必要と再確認できた。
- ・ 一般質問、今までは個人のフリーであるが、機関としての質問が必要
- ・ 委員会で執行機関の説明後、議員のみで議員間討議をする必要性がある
- ・ 外国人に選挙権がないが、川崎市や広島市は、外国人も選挙権を条例で定めた。外国人も住みよい市と思える。
  
- ・ 筒井議員が質問された項目No.14、主催者教育と選挙の充実については議会評価モデルとの関係性が今一つ理解できない点があり、江藤教授は取り組む事が当たり前のように説明されていたが、納得できていないです。
  
- ・ 江藤教授に懇談会で質問すべきところを、懇親会で直接聞いたことが、「地域経営」についての違和感。反感がありそうだったので、懇談会では質問できなかった。が、江藤教授から直接聞いた内容は、自分だけで収めておく内容ではないと思うため、全議員で共有していただきたいと思い、以下に記します。
- ・ 『経営』という言葉には、自助を求めるようなニュアンスがある。企業の経営と同等でとらえると、地域ももうけなければいけないように感じてしまう」と、改めて伝えたところ、江藤教授は「40年くらい前に、『地域経営』に対する批判があったことを思い出した。ほかに使う言葉がないから『経営』にした。『経営』は、ガバナンスととらえてほしい。『自治体経営』としなかったのは、行政職員だけが対象になってしまうから。住民も議員も一緒になってほしいから、『地域経営』にした」と説明してくれた。
- ・ 江藤教授とのやり取りは、以上となります。
- ・ 懇談会で質問すれば、その場で皆さんと共有できたのですが…。
  
- ・ 議会は執行機関と政策競争すべきとの事
- ・ その為には市民をまきこんで情報収集する事が重要であり、専門家や関係者の

意見を聞く事も必要であるとの談話を聞く事ができて良かった。

- ・ 議会活動の中に“常に市民がいる状態”を理想とする。
- ・ 議案審査の際の事前調査や関係者、専門家等の参考人招致
- ・ 議論を呼び起こす広聴の進化
- ・ 会派の在り方（個人マニフェストを共有し、政務活動、代表質問、一般質問等に活かす）
- ・ 個人的には、主権者教育・主権者意識の醸成が議会の最大の役割の一つと認識している。
  
- ・ 主権者教育とは住民自治の推進であり、「常に市民の声が入ることが議会のサイクルに必須である」との示唆を何回か繰り返し伺った。江藤先生が力を入れているポイントだと受け止め、評価モデルの仕上げに向けて意識を注ぐ点になりそうだと感じた。
- ・ 「議案審査において質疑は大事だが、執行機関側の答弁は眉唾で聞く方が良い」と議員間討議の重要性を訴えておられたのも印象に残った。
  
- ・ 「質疑がいかに大事であるか、執行機関側の説明については良いことしか言わない」この視点をこれからの議会活動の中で大事にしながら質疑ができればと感じた。
- ・ 議員間での討論もしっかりと行っていくべきとの話があった。
- ・ 一般質問について様々な見解を伺った、飯田市議会の現状からは全て当てはまらないと感じたが、個人的には議員として一般質問を続けていくことはとても大事なことと思っている（「機関としての議会」このことも重要であるとの認識は同一）
  
- ・ 難しくてよく分からなかったというのが正直な感想。研究者という職業は嫌いではないし、学びたい気持ちはたくさんある。私自身、論文や小難しい本を読んで活字に溺れるのが好きで、様々なジャンルの本を読んで来た。その上で思うのは、発信者の個性や思考傾向と受け手との相性というものがあるということ。江藤教授は飯田市議会とおつきあいが長いようなので、飯田市議会と相性が良いのだと思う。それに従って飯田市議会の在り方に影響を及ぼす大きな存在でもあると思う。それはそれで私はかまわない。しかし、相手が研究者だからといって、教授の言うことのすべてを鵜呑みにしてしまうのは、どうかと思う。疑うことも必要だと。真実や正解は誰にもわからない。疑うことによって自分たち飯田市議会の本質を見出す。その努力を怠ってはならないと思う。
- ・ あ。ここで書きながら気づいたこと。我々は研究者に対し当然のように「答え」を要求する。なぜなら教授(先生)だから。けれども大切なのは、答えを教授か

ら教わるのではなく、答えを自分で考えること。自分で考えて決断すること。研究者というのは、その機会を与えるためにあるのかもしれない。。と思った。

- ・ 「住民との関わり」「住民を巻き込んで」・・・など、住民を中心とした議会の大切さを改めて実感しました。
- ・ これまでうかがった江藤先生のお話よりレベルが高く、肩の荷が更に重くなると感じた。取組内容によって、それぞれ他の議会の先進事例を示して頂いたが、総てを一度に解決するのは無理なので、評価モデルへの取組のなかで、優先順位をつけて取り組まなくてはならない。
- ・ 江藤先生は、現場にしっかり入って調査研究を進め、飯田市議会にも何度も足を運んでいただいている。その上に立って、今回話された内容は、大分高度な、地方政治の大分先を見通したお話だと感じた。しっかり勉強していきたい
- ・ 議会の果たす役割として、議案の審議、調査研究といったこれまでの活動に加えて、市民との議論（接触の機会）を深める「議会の新しいカタチ」を作っていくことが、時代の要請だと考えました。
- ・ 議会モデルの評価が予定されていたと思うのですが、そうはなっていなかったように思いました。
- ・ 先生の講義は資料としてまとめたものが有ればいただきと思います。

## 2 地方議会評価モデルへ生かしたいこと

一般質問の内容を議員間で調整

- ・ 政策サイクルの改善検討
- ・ 主権者教育の場
- ・ 実際に議会が市民に対して何を発信していくのか、市民が理解できる内容で作り上げていくことが必要だと思います。
- ・ 「地域経営」という言葉を用いていく意義を、市民へ浸透させること。
- ・ 他の市町村の議会の良い例を参考にして実行できる議会に改善する。
- ・ 飯田市議会の現段階は、登る山をみんなで決めた段階。議員＋議会事務局職員

が全員参加で意思決定できたことをまず評価したい。これからは、できることから一歩ずつ、合議体として議会が一つになり着実に歩んでいきたい。

- ・ 千里の道も一歩から
- ・ 市民の声を入れていく議会運営については現状の評価モデルで十分組み込んでいるか、さらに肉付けする余地があるのか点検したい。
- ・ 議会評価モデルを今後の議会にしっかりと根付かせていくことが大事であり、いかに住民を巻き込んでいくか、これからが大変になると感じる。
- ・ 「住民を巻き込み議会の重みをもたせていく」ことや「決まる前に議論を起こしていく」こういった視点から通年議会は必要になってくるのではないか。
- ・ 決まる前に議論を呼びおこしていく。
- ・ 住民と「決まる前」に議論を呼び起こしていく!!  
では、まさに「水道料金」問題など、現在の課題と感じました。
- ・ 今後、次のステップ、行政、議会、住民の3者が共に進めるにはどの様にすればよいか、住民自治をどう進めるか、議会がどうかかわるのか、課題である。
- ・ 議案審査について、どうしたら深掘りできるか、評価モデルへの取組に市民にどのように関わってもらうのかの検討。
- ・ 住民、議会、首長と一つのテーマで議論する空間づくり(フォーラムとしての議会)をどう作っていくか。
- ・ 議決した議案についても、チェックしていく仕組みが必要との指摘
- ・ 決算審査を予算審査に活かすには議選監査委員との連動が大事との指摘
- ・ 一つ一つの制度が議会基本条例に位置づけられていることが大事。滝沢市議会、新城市議会、焼津市議会など
- ・ 議会改革制度検討会に市民を入れてはどうか
- ・ 議案に対する質疑は、市民に意見を求めてから行ってはどうか。市側の答弁は良いことしか言わない
- ・ 議会で決める前から市民と議論を起こしてはどうか
- ・ これからどんな計画が出てくるか事前に察知して調査研究を進めることが必要
- ・ 活動の根拠となる「制度化」の推進
- ・ 「評価モデル」の成果を実践するための機関の重要性
- ・ 特にありません。